

## サンディフック小学校銃乱射事件から 1 年

ニューヨーク事務所

2013 年 12 月 14 日、米国東部コネチカット州ニュータウンの小学校で児童や教諭 26 人が殺害された銃乱射事件（以下「本事件」という）から 1 年がたち、国内は追悼ムードに包まれました。オバマ大統領も同日朝、ホワイトハウスでミシェル夫人とキャンドルに灯をともし、黙祷を捧げたそうです。

本事件のあったニュータウンでは、静穏な環境で追悼したいとの地元自治体の意向で慰霊式典は開催されず、遺族や住民がそれぞれに追悼したそうです。多くの遺族は「最後に一緒に過ごした夜」である同月 13 日に、自宅などでろうそくをともして過ごしたと報じられています。

本事件の発生からこの 1 年間、米国では銃規制に向けた議論が活発化し、政治の舞台でもさまざまな駆け引きが行われました。今回は、この 1 年を振り返りながら、米国における連邦政府レベルでの銃規制の現状等についてご紹介します。



ミシェル夫人とキャンドルに灯をともしオバマ大統領。 ※<http://www.foxnews.com/>より。

### 1 本事件の概要

本事件は 2012 年 12 月 14 日午前 9 時 30 分ころ、地元に住むアダム・ランザ（当時 20 歳。以下「犯人」という）が自宅近くのサンディフック小学校に侵入し、自動小銃で児童 20 人を含む 26 人を射殺した後に、銃で自殺したという事件です。

報道によると、動機は犯人の母親（本事件直前に犯人が銃で殺害したとみられる。）が、犯人を精神科病院に入院させようとしていたことへの恨みではないかなどと言われていましたが、米司法当局は 2013 年 11 月、最終的な動機の解明には至らないままに捜査を終了した旨を発表しました。

捜査の過程において、犯人の自宅からは犯行に使用した銃とは別の銃が 3 丁、槍やサ

ムライ・ソード（日本刀を模した刃物）を含む刃物が 12 本、そして実弾が 1600 発以上発見されました。また、犯人が全米ライフル協会（NRA）の認定証を所持していたという事実も明らかになりました。

ちなみに、本事件の死者数（26 名）は、過去米国内で発生した銃乱射事件の中では 2007 年 4 月に発生したバージニア工科大学銃乱射事件（死者 32 名）に次ぐ、ワースト 2 位の死者数となっています。

## 2 オバマ大統領の決意と挫折

オバマ大統領は、本事件の 2 日後にニュータウンで行われた犠牲者の追悼集会に参加し、その日の声明の中で「We must change（われわれは変わらなくてはならない）」と語るなど、銃乱射事件の再発防止に向けて全力で取り組む意欲を示しました。



追悼集会において、時折涙ぐみながら銃規制の必要性を訴えるオバマ大統領。 ※同前

また、政府だけでなく各州においても、本事件をきっかけに銃規制強化を求める声が高まりました。その先駆けとして、ニューヨーク州では、本事件から約 1 か月後の 2013 年 1 月 15 日、弾倉に装てんできる銃弾の数を従来の 10 発から 7 発に制限することや、精神障害者に銃器を購入させないよう事前の審査を実施することなどを盛り込んだ銃規制強化法が成立しました。

このように本事件の発生を契機として、一時は米国全体が銃規制に向けて大きく舵を切るかに見えました。

しかしながら、同年 4 月、オバマ大統領が政権 2 期目の最重要課題として推進してきた、連邦政府レベルでの銃規制強化法案（全ての銃購入者に対する身元調査の強化や殺傷力の高い武器の販売禁止などを義務づけることを柱とするもの）が、NRA から銃所有権利の擁護派からの激しい反発を受けたことなどにより、上院本会議で否決されてしまったのです。

法案否決を受け、オバマ大統領は「ワシントンにとって恥すべき日だ」と落胆しながらも、銃規制への取り組みは「まだ終わっていない」と語りました。しかしながら、その後、政府からの具体的な方策は何ら示されず、銃規制に向けた取り組みは事実上暗礁に乗り上げてしまったのです。

### 3 止まらない銃乱射事件

こうした状況をあざ笑うかのように、上院での法案否決後も、全米各地において銃乱射事件による悲劇が続発しました。

5月26日、テキサス州サンアンジェロにおいて、海兵隊員（当時23歳、射殺）の男が車で移動しながら銃を乱射し、1人が死亡し5名が負傷した事件。

6月7日、カリフォルニア州サンタモニカの大学「サンタモニカ・カレッジ」において、同大学に過去在籍していた精神疾患のある男（当時23歳、射殺）が銃を乱射し、5人が犠牲となった事件。

8月5日、ペンシルベニア州北部で開かれていたタウンミーティングにおいて、男（当時59歳、逮捕）が銃を乱射して3人が死亡した事件。

9月16日、首都ワシントンDCのワシントン海軍施設内において、精神疾患の治療を受けていた男（当時34歳、射殺）が銃を乱射し、12人を殺害した事件。

9月19日、イリノイ州シカゴの公園において、何者かが銃を乱射し、頭部を撃たれた3歳の男児を含む13人が負傷した事件。

10月21日、ネバダ州リノ近郊の中学校において、同校の男子生徒（当時13歳、直後に自殺）が拳銃を数発発射し、男性教師が撃たれて死亡したほか、12歳の生徒2人が負傷した事件。

11月1日、ロサンゼルス国際空港において、男（当時23歳、逮捕）が運輸安全局の職員を狙って銃を乱射し、1人が死亡、2人が負傷した事件。

12月13日、コロラド州デンバー近郊のアラパホ高校で、同校の男子生徒（当時18歳、直後に自殺）が銃で他の生徒2人を撃った事件。この日は、サンディフック小学校での事件発生から丸1年となる日を翌日に控えていたこともあり、全米に特に大きな衝撃を与えました。



ワシントンDCでの乱射事件における発生直後の現場の様子。 ※同前

#### 4 オバマ政権の巻き返しに期待

連邦政府レベルでの銃規制政策については、本事件の発生から1年が経過した今日に至っても、「何も実現されず、当時と何ら変わっていない」と言えるでしょう。しかしながら、進まない政府による銃規制政策とは対照的に、民間レベルでの運動は引き続き活発に行われています。

その一例として、米国でオンラインマガジンを発行している「Slate」社は、「How Many People Have Been Killed by Guns Since Newtown?」と題したウェブサイトを立ち上げ、本事件発生以降に銃で殺害された全米の死者数を計上して公表することで、銃規制に向けた情報発信を行っています。

同サイトによると、2013年12月31日現在の死者数は12,041人(1日平均にすると約33人)に上っていますが、サイトの冒頭の断り書きにもあるとおり、この数字は公的機関が発表した数字ではなく、報道や人々からの情報提供に基づいて独自に計上している数字であることから、正式な死者数はさらに上回っているものと考えられます。



「Slate」社のホームページ。米国の地図上には、死者数に応じた大きさで、血痕をイメージしたイラストが描かれている。

[http://www.slate.com/articles/news\\_and\\_politics/crime/2012/12/gun\\_death\\_tally\\_every\\_american\\_gun\\_death\\_since\\_newtown\\_sandy\\_hook\\_shooting.html](http://www.slate.com/articles/news_and_politics/crime/2012/12/gun_death_tally_every_american_gun_death_since_newtown_sandy_hook_shooting.html)

本年(2014年)1月20日をもって、第2期オバマ政権も発足から1周年を迎えます。武装の権利が合衆国憲法修正第2条に明記されている以上、米国全土における銃規制が一筋縄ではいかないのはご案内のとおりです。

しかしながら、本事件直後の追悼集会において「この問題(銃規制)が複雑だという

ことは、もはや何もしない言い訳にはならない」と述べたオバマ大統領としては、このまま黙って引き下がる訳には行かないはずだ。

米国に在住する銃規制賛成派の一人として、政府が本年を連邦政府レベルでの銃規制政策の実現に向けた正念場と捉え、その実現に向けて奮闘することを期待してやみません。

それこそが、本事件で犠牲になった子供たちの無念やその遺族の思いに応える唯一の道であると考えます。

(松重所長補佐 警視庁派遣)

